

報道関係各位

京都橘大学 2021年度に向けた改革の概要を発表 「情報理工学部」「経営学部」「経済学部」※の3学部を新設

『Innovation for Future Life』を改革コンセプトに AI時代で活躍する人材を育成する「一拠点総合大学」化を更に推進

※設置構想中。新学部学科名はいずれも仮称。計画内容は予定であり、変更することがあります。

京都橘大学（京都市山科区、学長・日比野英子）は、本学の新たなビジョンとなる2021年度に向けた改革の概要をお知らせします。『Innovation for Future Life』を改革コンセプトに、急速に変化・発展する次世代社会において活躍・貢献する人材の育成をめざすべく、「情報理工学部」「経営学部」「経済学部」の3学部（いずれも仮称）を新設。また、新学部開設に伴う新棟の建設を計画しています。構想中の概要は以下のとおりです。

■改革のコンセプト

『Innovation for Future Life』

急速に発展しているAIやIoTなどの情報技術と、社会創造のための種々の知恵や技術を総合し、豊かな生活環境、先進的な都市環境、健康長寿社会の構築へ貢献できる人材の育成をめざします。

国際、人文、教育、社会、医療系など幅広い分野の教員・学生が集う「一拠点総合大学」の強みをさらに発展させ、分野を越えた“つながり”と“実践”により新たな価値の創造をめざすなかで、学生の成長を促す教育を展開します。

■学部・学科概要

情報理工学部 情報理工学科（仮称）

【入学定員】130人（予定）

【主な領域】情報システム、ネットワークデザイン、組込みシステム、IoT技術、情報メディア、人工知能（AI）、データサイエンス など

【特徴】◆AI・IoTで社会に役立つ情報システムやソフトウェアを創造する力を養う。

情報技術を活用し、健康長寿社会に必要とされる先進的な都市や生活環境の実現に役立つ情報システムやソフトウェアを創造できる人材や、高度な技術でデータを活用できる人材を育成する。

◆人間や社会についての洞察を深め、異分野の人材と協働できる力を養う。

多様な教育研究目標を持つ他学部とのクロスオーバー教育（分野横断型教育）により、人

間や社会についての洞察を深めることで、異分野の人材と積極的に協働を行う能力を身につけた実践的な人材を養成する。

情報理工学部 建築デザイン学科（仮称）

【入学定員】 80 人（予定）

【主な領域】 建築、インテリア、環境デザイン など

【取得資格】 1 級建築士、2 級建築士・木造建築士、インテリアプランナー など

【特 徴】 ◆未来の住環境や都市環境を生活者の目線でデザインできる力を養成する。

設計製図など建築・インテリア・環境デザイン領域の専門知識と技術を身につけ、健康長寿や豊かな生活環境を実現する未来の住居や都市の景観を生み出すことのできる人材を養成する。

◆情報技術や幅広い教養により広い視野を身につけ、デザインに活かす力を養成する。

情報理工学科および他学部とのクロスオーバー教育により、情報化社会に対応できる豊かな教養や広い視野を身につけ、デザインに活かすことのできる人材を養成する。

経営学部 経営学科（仮称）

【入学定員】 260 人（予定）

【主な領域】 マーケティング、イノベーション、戦略、組織、会計、ファイナンス、ガバナンス、経営情報 など

【特 徴】 ◆AI 時代における組織と戦略のイノベーションをデザインする力を養う。

AI 時代において、社会的問題解決と経済効果の両立する新たな価値を創造するため、専門科目および他学部とのクロスオーバー教育を通じて、企業だけにとどまらず社会のあらゆる領域で必要とされる、組織および戦略のイノベーションに貢献できる力を養成する。

◆徹底したアクティブな学びで社会に不可欠な思考力・実践力を鍛える。

4 年間を通じたアクティブな学びによって、マーケティングや会計など経営学の専門的知識だけでなく、論理的思考能力やコミュニケーション能力、データ分析力などの実践力を身につけ、社会で幅広く活躍できる人材を養成する。

経済学部 経済学科（仮称）

【入学定員】 240 人（予定）

【主な領域】 金融・産業経済、地域・国際経済、医療・社会保障、公共経済・公共政策、観光・文化経済 など

【特 徴】 ◆健康長寿社会・グローバル社会において注目される領域を広い視野で学ぶ

従来型の産業だけではなく、健康長寿社会・グローバル社会のなかで存在感を増す医療や食、観光や文化、情報などの領域へ対象をひろげ、公共性や地域性も含めた幅広い視野から経済を学ぶ。

◆データサイエンス・行動経済学など新しいアプローチから経済を学ぶ。

経済学の専門的知識を基礎に、他学部とのクロスオーバー教育を活用してデータサイエンスや行動経済学などの新しいアプローチで経済を学び、広い視野で社会の課題に取り組むことのできる人材を養成する。

■新設3学部共通の特徴

- ①『思考力・態度』と『汎用的技能』を軸として、主体的に学びを進める新しい教養教育課程を構築
『思考力』や学び続ける意欲などの『態度』および、これからの社会に必要な『汎用的技能』を本学の教養のコアとして涵養し、その能力を軸に知へのアプローチを行う教養教育課程を構築。
- ②インターンシップ等の産学公連携教育を中軸に置いた、新たなキャリア教育を展開
自律型キャリア育成科目やインターンシップ（国内・海外）、学部横断型の企業課題解決プロジェクトなどの産学公連携教育科目を配置。実践・経験を中心に置いた、1回生からのキャリア教育モデルを構築し、自らのキャリアを深く考える科目を段階的に配置。
- ③徹底的にアクティブに全員がPBL※に取り組む
学びと実社会をつなげる学びの要として1回生からゼミ科目を配置。1回生～2回生前期まではアカデミックスキルやプロジェクトマネジメントを学び、学部横断的に社会課題に取り組む。2回生後期からは各ゼミで企業、自治体とのPBL、ビジネスコンテストへの参加や学内での課題解決型学習などに取り組むことにより、汎用的能力および高度な専門性を身につける。
※PBL（Project Based Learning）：問題を発見し、解決する能力を養う課題解決型学習。
- ④文理融合の“クロスオーバー”な学びを展開
新設3学部において、クロスオーバー科目（共通科目）を配置し、文理融合の学びを促す。

■新棟の建設について

学部間連携を促進し『Innovation for Future Life』の拠点となる新棟を建設。

【つながりと実践を促進するラーニング・コモンズ】

- ・本学の新たなメイン導線に配置し、教室・オフィスが一体化した空間で、分野や立場を超えた“つながり”と“実践”を生み、賑わいをうみだす空間。
- ・個人、少数、グループまでさまざまなスタイルの学習を選択でき、居心地よく自習、発表、実践をおこなう空間。

【サイバーメディア・ラボ】

- ・コンピューター・ネットワーク関連のメディア※とワークスペースを備え、知的活動、思索、発見、創造を促す次世代のコモンズ。

※コンピューター・ネットワーク関連のメディア：高性能PC、プログラミングソフト、VR機器などを配置

【アクティブ・ラーニング・スタジオ】

- ・可動する個人デスクを配備した中規模教室。
プロジェクターやホワイトボードを学習小集団ごとに利用できるように配置し、共同学習や議論・プレゼンに適した環境をつくり、新学部の実践的な学びの象徴的な空間。



「新棟イメージ」

■大学概要

所在地：607-8175 京都市山科区大宅山田町 34

学 長：日比野 英子 学生数：4,763（学部：4,697人、大学院：66人）

学部・収容定員：国際英語学部 360人、文学部 960人、発達教育学部 560人、現代ビジネス学部 1,320人、看護学部 380人、健康科学部 1,304人

大学院：文学研究科、現代ビジネス研究科、看護学研究科、健康科学研究科